

流域治水とは

近年、全国各地で激甚な水害が頻発しており、さらに、今後、気候変動による降雨量の増大や水害の激甚化・頻発化が予想されている。

このような水災害リスクの増大に備えるため、河川・下水道等の管理者が主体となって行う従来の治水対策に加え、集水域から氾濫域までを一つの流域として捉え、その**河川流域全体のあらゆる関係者が協働し**、流域全体で水害を軽減させる治水対策、「**流域治水**」への**転換**を進めることが必要である。



流域治水プロジェクトの策定

○策定趣旨

県、市町等が連携し、流域全体で重点的に実施すべき治水対策の全体像をとりまとめ、「流域治水」を計画的に推進するため

<流域治水プロジェクト>

河川管理者等がこれまで実施してきたハード・ソフト対策に加えて、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、水害を軽減させる取組(流域治水)の具体的な対策をとりまとめたもの。

○策定主体

県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会 流域治水部会

<流域治水部会>

- 市町毎に設置されている既存の減災対策協議会の枠組みを活用して設置
- 流域のあらゆる関係者が参画し、関係者間の協議・情報共有を行う

市町	防災、河川、下水道、都市計画、農林等の関係課
県	土木建築部 河川課、都市計画課、砂防課、土木建築事務所 農林水産部 農村整備課、森林整備課、農林水産事務所
国	中国四国農政局、中国森林管理局、森林整備センター、下関地方気象台

流域治水プロジェクトの概要

○プロジェクトの構成

流域全体の様々な対策を「見える化」した【位置図】と、実施主体や目標達成に向けた工程を示す【ロードマップ】で構成される。



○主な対策

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 河川整備計画に基づく河川改修・ダム建設等の推進
- 適切な維持管理(浚渫、老朽化対策等)
- 雨水幹線等の下水道施設の整備や耐水化
- 事前放流等の実施による既存利水ダムの有効活用
- 田んぼダム等の水田の貯留機能向上
- 森林の涵養機能を維持するための森林の整備・保全および治山対策
- 渓流からの土石流による被害を防止する砂防堰堤の整備

■ 被害対象を減少させるための対策

- 水害リスクを考慮したまちづくり(立地適正化計画の作成、強化)
- 防災まちづくりの検討に必要な情報の整備

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知
- 河川監視体制の強化
- 防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達
- 出前講座等を活用した防災教育の推進
- 自主防災組織の育成や活動の支援
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進
- 防災拠点の整備や総合防災システムの構築など、各市町の独自の取組を推進 など

○目標

流域全体のあらゆる関係者の協働により、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を計画的に推進し、流域における浸水被害の軽減を図る。

<目標期間>

短期・・・概ね5年
中期・・・概ね10～15年
中長期・・・概ね20～30年